

無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無02-10-5/5)

目 的

風俗慣習、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等についての全国的調査を行い、その成果をデータベースとして構築する。さらに研究協議会の開催を通じて各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図り、具体的保護施策の実施に資する指針を作成し公表する。

成 果

1 民俗技術に関する調査・資料収集

民俗技術に関する調査・資料収集として、長野県飯田市の水引細工の製作と伝承の現状について、現地調査を行った。その成果は、過去5年間の調査の成果とともに『無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究報告書』で報告した。

2 無形民俗文化財の伝承状況に関する調査研究

無形民俗文化財の伝承状況の調査として、千葉県銚子大神幸祭、鹿児島県悪石島の盆踊り、鹿児島県大島郡天城町前野の田踊りなどの現地調査と資料収集を行った。また、過去5年間の調査研究に基づく成果を、『無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究報告書』で報告した。

3 無形民俗文化財の公開状況に関する調査研究

ブロック別民俗芸能大会等の公開状況について調査を行った。

4 研究集会の開催

日 時：2010（平成22）年11月18日（木）10：30～17：30

会 場：東京文化財研究所セミナー室

参加者：98名

テーマ：無形の民俗の保護における博物館・資料館の役割

趣 旨：無形文化遺産部では、旧芸能部の時代から、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して民俗芸能の保護と継承について研究協議する会を開催してきた。平成18年度より対象を無形の民俗文化財一般に広げ、新たに「無形民俗文化財研究協議会」として開催している。第5回に当たる本年度は、「無形の民俗の保護における博物館・資料館の役割」をテーマとして、4件の事例の報告を行った。この報告をもとにコメンテーターやフロア参加者も含めた総合討議を行った。協議の成果は報告書として刊行した。

プログラム：

（総合司会） 俵木悟（東京文化財研究所無形文化遺産部）

10：30～10：40 挨拶

10：40～10：45 趣旨説明

俵木悟（東京文化財研究所無形文化遺産部）

10：45～11：30 「マールン船の民俗技術の保護と継承—市民協働の資料館活動」

前田一舟（うるま市立海の文化資料館学芸員）

11：30～12：15 「築27年目の『再開館』—芸北民俗芸能保存伝承館の試行錯誤—」

六郷寛（北広島町教育委員会生涯学習課課長補佐）

12：15～13：45 （昼食）

13：45～14：30 「生活文化伝承のために博物館ができること・できないこと」

①プロジェクト研究 Areal,4

- 「体験博物館」がめざす先— 榎美香（千葉県立房総のむら上席研究員）
- 14：30～15：15 「氷見の獅子舞—天狗が獅子を殺して祭りが終わる—」小境卓治（氷見市立博物館館長）
「田園空間博物館における伝統芸能の保存・継承
—ひみ獅子舞ミュージアムの活動について—」
鈴木瑞磨（氷見市産業部農林課田園・漁村空間整備推進班）
- 15：15～15：40 （休憩）
- 15：40～17：30 総合討議
コメンテーター：永松敦（宮崎公立大学人文学部教授）
坪郷英彦（山口大学人文学部教授）
コーディネーター：俵木悟（東京文化財研究所無形文化遺産部）

5 無形文化遺産の記録の所在情報のデータベースの構築

昨年度末までに収集した記録の所在情報のデータについて整理を行い、その結果を一覧表にして、情報提供者である地方自治体に配布し、情報の確認、訂正の作業を行って、データ化を完了した。その経過については学術雑誌で報告した。

発表件数 1件

- ・俵木悟「文化財としての民俗芸能、昭和30～40年代の再検証」第62回日本民俗学会年会 東北大学 10.10.3

論文等掲載数 4件

- ・俵木悟「無形民俗文化財の映像記録—「使える記録」の実現に向けて—」『日本民俗学』264 pp.122-137 10.11
- ・宮田繁幸「無形民俗文化財の公開と国際交流—「国際民俗芸能フェスティバル」の15年—」『無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究報告書』 pp.39-57 東京文化財研究所 11.3
- ・俵木悟「民俗芸能の伝承組織についての一試論—「保存会」という組織のあり方について—」『無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究報告書』 pp.59-79 東京文化財研究所 11.3
- ・服部比呂美「民俗芸術に関する調査と研究報告」『無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究報告書』 pp.13-38 東京文化財研究所 11.3

報告書刊行 2件

- ・『第5回無形民俗文化財研究協議会報告書—無形の民俗の保護における博物館・資料館の役割—』東京文化財研究所 11.3
- ・『無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究報告書』東京文化財研究所 11.3

研究組織

- 宮田繁幸、俵木悟（以上、無形文化遺産部）、大島暁雄、服部比呂美（以上、客員研究員）